11.7.5

No. 1　大正11年6月29日

第参拾参回報告

一、長崎縣ノ社會事業　新聞紙切抜
二、八幡製鉄所ノ危害豫防ト託児所　〃
三、福岡縣ノ職業紹介所不振　〃
四、福岡職業紹介所五月中ノ成績　〃
五、門司ノ託児所　〃
六、女中ニ一日ノ慰安會　〃
七、門司市職業紹介所ノ状態　〃
八、小倉市労働者状況　〃
九、五月中福岡縣工場課調査ノ職工数　〃
一〇、同上長崎縣　同上　〃
一一、炭坑地ニ産業組合生まる　〃
一二、伊田後藤寺町坑夫組合ノ廉賣市　〃

（甲）

内野村小作地
共同耕作計畫

福岡縣嘉穂郡内野村では大正十年秋稻作收穫期頃から地主と小作農との間に小作料引下げ問題起り紛議を重ねて居たが其後交渉の結果二三の地主は小作人側の要求を容れ平均一割八分の引下を斷行する事になつた然るに他の地主側は他地方一般の小作料に比較し別段高き事なく且つ引下を斷行する時は到底引合ぬとの假りに採算を捨てゝ引下げる時は自然他方面にも影響を及ぼす恐れありとの理由で斷然此要求を拒絶したが小作人側では現在の儘では米價は他に比較して非常に下落したにも不拘肥料其他の物價は共割に低下せぬ殊に近時は勞働賃金非常に高き爲め到底耕作し得ぬとの理由で播秧期間近になつた今日續々小作地の返還を斷行し其の總面積三十町歩に達した然るに地主側では之れに對し前後策の考究中であるが聞く處に依れば共同耕作を行ふべく目下準備中であると

聽ては潮の如く
寄せ來さうな失業問題
長崎にウヨ／＼する勞働者
縣當局の對策腐心

三菱長崎造船所が四千餘名の職工を一時に解雇した當時是等多數勞働者が何處に何う落附くかが問題であつた、旅費と優遇手當が欲しさにその多くは歸郷等と表面を裝うてゐたがその實大部分は長崎に止まつて居る一方市内各工場でも事業縮小又は廢止等で多數の職工を解雇せる結果最近の長崎市に於ける勞働者は其需要より遙か過剩を來し失業の聲が其處此處に起つてる縣當局は造船所の解雇職工は大部分長崎に止つて居るが相當退職手當を有し一部不心得者を除いては多く職業に就て居るから未だ失業問題を惹起するに至らないと思ふ然し救濟方法は目下研究中である隨つて今の處斷ての内容を明示する程度に達して居ないとて一切發表を見合せて居るが今後經濟界の状態如何に依つて長崎市の勞働界も急轉直下形勢一變すべく豫期されてゐる（長崎）

無理も無い
勞働市の綽號
八幡市と勞働者數

勞働都市と綽號さるゝ八幡市には昨年の國勢調査に十萬餘の人口を有する事が明らかとなつたが中勞働者が何人居るかは明瞭に表示されて居ない其筋で睨んだ所に依ると三萬五千餘と言ふ事であるが此の多數の勞働者の家族迄合算すると凡そ九萬餘となり全人口の八割を占めて居る八幡製鐵所のお蔭を蒙つて居る者の數は同所の調査に依ると從業員及び其の家族で合計六萬六千四百十九人人夫及其家族を合すると凡そ七萬五千餘に達する尚詳細を同所の調査に依りて見ると職工一萬五千六百八十二名其家族を加へれば五萬三千四百廿五名となり上は長官から一給仕に至る職員傭人數は官舍員所屬病院從業員所屬船舶員數は六千六百五十六名で此も家族迄合算すると一萬二千三百八十四名に及んでゐる日々製鐵所に職夫供給社から雇入るる人夫數は五千餘名に達し斯くて製鐵所に依つて生くる人口は全人口の七割に相當する斯く計算して來ると同市が九州唯一の勞働都市の名を有するも宜なる哉と首肯かれてゐる